第58回 宮パーツ株式会社

社内の仕事風景

「〈モノからソフトへ〉を掲げ、情報発信に力を入れています」

創業以来、すでに半世紀を超える自動車部品・整備機械工具卸の宮パーツ株式会社（入谷利英社長）。同社の社訓は、先代社長が創業時に決めたものを守り続けています。

宇都宮市の本社をはじめ栃木県内に9拠点を持つ宮パーツ㈱は、自動車部品・用品・整備機械工具・タイヤ・オイル・バッテリーなど、自動車と自動車整備に関する総合商社です。業界では栃木県を代表する企業として、ディーラーや自動車修理工場であれば知らない人はいない存在ですが、入谷社長は「約半世紀前に父・入谷孝雄（現会長）が29歳で創業した時には、むしろ後発でした」と話します。

同社が創業した昭和41（1966）年は高度成長期の真っ最中。日本のモータリゼーションが本格的に進みつつある時でした。同社のビジネス分野も、まさに時代のニーズに応えるものでした。

「新会社にはまだ信用もありませんから、メーカーには売ってもらえません。せっかく仕入れた製品も販売店や修理工場など顧客には買ってもらえず、大変な苦労をしたそうです」

それを乗り越えたのは、19歳で福島県白河市から東京へ就職した創業者のがんばりでした。そしてがんばりの根幹こそが、同社の社訓なのでした。

「創業直後に定めた社訓は、それまで父が働きながら学んだことを文章にしています。人との付き合い方や社員の育て方、会社の目指すものなどが、すべて込められています」

今も立派に生きている社訓です、と話す入谷社長の顔は、誇らしそうに輝いていました。

宮パーツ㈱本社社屋

この社訓は本社会議室などに掲示し、誰でもすぐに見られるようになっています。

「入社試験の面接でも、応募者が読めるようにしています。私どもが何を考え、どんなことを目指しているのかを、分かってもらうためです」

入社前から会社の理念を理解してもらうことも、社員教育の大切なプロセスだと、入谷社長は考えています。もちろん入社後には、研修の時にさらにくわしく説明します。

「ひとつひとつを、具体的な企業活動をあげながら説明します。例えば商品知識の重要性と、それを生かして顧客サービスに結びつけることのできる知性の大切さなどを理解してもらいます。そうすることで、社訓にこめた創業者の想いやその重みも、理解してもらえます」

現在、同社では〈モノからソフトへ〉を掲げ、顧客への情報提供やコンサルティングに力を注いでいます。定期的な研修会も開催しています。

「私どもは卸ですから、消費者と直接ふれあうことは、滅多にありません。その一方で、メーカーなどからの情報は常に流れ込んできます。そこで販売店や工場などの直接のお客さまに、私どもで持っている豊富な情報をお届けし、時にはアドバイスもさせていただくことで、社会全体がより安全でより豊かなモータリゼーションの恩恵を受けられるよう、努力しています」

入谷社長は、取材の間何度となく「車の楽しさを伝えたい」と話しました。「自動車はいつの時代も便利で、快適で、楽しい乗り物であって欲しいですね」と言う入谷社長は、自動車社会の明るい未来を確信しているに違いありません。

社訓

道徳の高揚
知識と知性の向上
信用、信頼感の培い
強調、連帯感の強化
人に打ち勝つ
勉強と努力

Information

宮パーツ株式会社
代表取締役社長 入谷 利英
創業／1966年5月
所在地／宇都宮市八千代1-14-10
☎028-658-6370
FAX028-658-1388
http://www.m-parts.co.jp

宮パーツ株式会社
代表取締役社長　入谷 利英さん